

## マンツーマンディフェンスの基準規則の補足解説

### ◆マンツーマンディフェンスの見分け方

- ・マンツーマンの意識がある。(声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等)
  - ・ボールや相手とともに動いている。
  - ・相手チームのフロントコート内のマッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。  
(オールコート、ハーフコート等ディフェンスをし始める位置を定めない。)
  - ・マッチアップエリア以外において、チームとして個々のオフェンスに対してピックアップするディフェンスを行う場合は、スローインするオフェンスにマッチアップしなければならない。
- ※スローイン時のマッチアップエリア内制限区域においてはオフボールマンへのトラップは許される。

### ◆ヘルプディフェンス

- ・ヘルプローテーション、スイッチを行うことは問題ないが、その後はすぐにマッチアップを明確にすること。
- ・ヘルプディフェンス後に、オンボールのプレーヤーに対してトラップになっても構わない。

### ◆ゾーンディフェンスの見分け方

- ・上記に反すること。
- ・ヘルプサイドにいるオフボールのディフェンス側プレーヤー(3線)の両足がボールサイドにある。
- ・オフボールのオフェンス側プレーヤーに対して、数的優位な守り方をしている。(制限区域内へのスローイン時を除く)
- ・オフボールのスクリーンを伴わないポジションチェンジに対して、スイッチを行っている。  
(スクリーンがある場合にはスイッチが認められる。)

### ◆トラップについて(「マンツーマンディフェンスの基準規則 2. プレスディフェンス 及び 4. オフボールディフェンス」に関する補足)

- ・ミニバスケットボールにおいて、ボールを持っている選手にトラップが仕掛けられる場面は次のとおりとする。

- (1)ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
- (2)パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時
- (3)移動が容易に行える距離にある時(自分のマークマンとボールマンの距離の目安:2~3m)

※ U15(中学生)では上記(1)~(3)を適用せず、全ての場面においてボールを保持している選手へのトラップは許される。

- ・スローイン時(サイド・エンド両方)においてのみ、スローインをするプレーヤーにマッチアップするディフェンス側プレーヤーが 1.5メートル以内のマッチアップの距離制限を超えて制限区域内のオフボールプレーヤーをトラップすることは許される。

※「マンツーマンディフェンスの基準規則」および「マンツーマンディフェンスの基準規則の補足解説」におけるトラップの定義:ボールをスティールできる距離における数的優位な守り方

#### ◆予測に基づくプレーについて

・U15(中学生)においては、マンツーマンディフェンスを行なっている前提において、予測に基づくプレーとコミッショナーが判断した場合、基準規則違反とは見なさない。

※予測に基づくとは、予測の根拠となる動きがあることを示す。

※マークマンを意識せずにエリアを守ることはマンツーマンの趣旨に反するため許されない。

※ミニバスケットボールにおいて本項は適用しないが、「マンツーマンディフェンスの基準規則」通り、制限区域内のみで予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレーヤーをトラップすることは許される。

#### ◆その他

・ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)を視覚的にわかりやすくするためにラインを引くことは可能とするが、競技時に支障のない色のラインとすること。

#### 2019/2/21 追加内容

##### ◆マッチアップ

・3ポイントラインがない場合は「目安」という文言を生かす。

・手のサイン等があっても「明確に」という文言が当てはまらない場合、コミッショナーが「マンツーマンディフェンスをしていない」と判断する場合がある。

・マッチアップエリア外において、スクリーンを外すときのオンボールディフェンス 1.5メートル以内は旗の対象にしない。マッチアップエリア内であれば、旗の対象となる。

##### ◆オフボールディフェンス

・ボールとマークマンの位置を確認し自分のポジションを確定するための首振り認められるが、ポジションを固定(動かない)しての首振りは「常に」という文言に反する。

・2線(ワンパスアウェイ)と3線(ツーパスアウェイ)のディフェンスに距離の指定はないが、他の項目に触れる場合は違反の対象となる。

・ボールがドリブルまたはパスで動いた場合だけでなく、オフェンスが動けば同様の扱いとなる。

・「予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレーヤーをトラップすることは許される」とは制限区域内にオフェンスがいる時点のものを指し、オフェンスが制限区域外にいるときには該当しない。

・オフェンスが明らかなアイソレーションの時は、自分のディフェンスを少しでも捉えていればこの限りではない(常に移動しなければいけない、ではない)。

##### ◆スイッチ

・スイッチ後はディフェンスのマッチアップの意識確認が大切となる。

##### ◆トラップ

・(ミニのみ)ボールを受けた瞬間に「トラップ」の状況になっていなければならない。

・(ミニのみ)ディフェンスの距離ではなく、オフェンスの距離が2~3メートル以内である。